カトリック 高松教区報

2006年3月5日(第110号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659
FAX 087-833-1484
Email
教区:tkcuria@mxi.netwave.or.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

「強い時」をもつ

四旬節に向けて

高松教区長　溝部　脩

「強い時」、不思議な日本語で英語のことばを勝手に訳してみました。この「強い」は「弱い」の対語ではなく、「通常」の対語になります。通常の生活の場は私たちにとって一番大切な場です。ところが通常だけを生きていると、不思議とマンネリ化して生活にめりはりが利かなくなります。結果的には「弱い」ということになります。生活のマンネリ化を避けるにはどうすればよいのでしょう。それを「強い時」ということばで英語が表現しております。

どうも「強い」というと張り切りすぎて、なにか二の足を踏んでしまいそうです。この「強い時」というのは、実は、望めばごく自然に踏み出せるものなのです。教会には典礼暦年というものがあります。日本の正月にあたるのは待降節から降誕祭の間の期間です。春の慶びにあわせてあるのは、四旬節から復活祭までの間の期間です。これらの期間に特にめりはりを利かしなさいと信者の皆さんに勧めています。それではどのようにめりはりを利かせばよいのでしょう。

教会は昔から三つのことを信者さんたちに勧めてきました。その第一は祈りを深くすることです。四旬節には祈る機会を多く持つことです。形式だけの黙想会参加でない、真に「祈る」という体験をすることです。祈りは人の生き方を大きく変えます。祈らずに信仰生活はありません。祈りを深くすることで、生活にめりはりがつきます。

その第二は断食です。飽食の時代に生きている私たちは、とかく暴飲暴食に走りがちです。聖書は暴飲暴食に走らず、身を慎んで生きるようにと勧めています。通常の生活と違う食生活を考えてみるのも良いことです。飢えの体験などということも苦しんでいる人の理解に役立つかもしれません。自分が節約した分をお金に換算して、世界の飢えている人々のために寄付するなど最高です。

第三は愛の行為です。常日頃恥ずかしくて言えない感謝のことばを、家族の方々に伝えるのも良いでしょう。男子厨房に入らずとかで気取ってなくて、奥様と一緒に皿を洗うのも悪くありません。つっぱりを捨てて、優しいことばを年上の人にかける若者の姿も美しいものです。要するに、これらの季節にそれぞれが自分のできる範囲で他人を喜ばせることを実践することです。

「強い時」が迫っています。四旬節に入る時、今私が述べたことがらを思い起こして下さればありがたいと思います。

桜町教会ヨゼフ会新年会にて

はばたき

この冬は暖冬の予想を覆して豪雪のつづく厳冬となりました。そのために、ぽかぽかと暖かい春がとても待ち遠しく思ったことでした。しかし、もし、春の前が冬ではなく、夏だったらどうでしょうか。そうだとすると春三月はおそらく「薄ら寒い季節」になってしまうことでしょう。寒さがあるから暖かさを感じ、厳しさがあるから優しさを感じ、辛さがあるから、喜びを感じるものです。そう思うと、辛さや厳しさをじっと我慢する人こそ喜びが大きいはずです。

金持ちの門前で、できものだらけの身体を犬になめられながら、食卓から落ちるパン屑さえも食べられずに死んだラザロにはどんな喜びが待っていたことでしょう。

お別れする司祭

中島町教会での一〇年間

ジュード・ピリスプッレ神父

長崎巡礼先の教会で
ミサを行うジュード神父

私の二番目の郷里になった中島町教会・・・。一〇年近く働いてきましたが、教会の皆さんに「さようなら」を言う日が来ました。私の家族みたいになった人たちから離れていくなんて考えられないことですが、イエス様の言葉をのべ伝えるために、必要なところに出向いていくのは宣教師の基本ですので、この二番目の郷里から旅立ちをしたいと思います。

「私のお葬式を神父様にしてもらいたかった」「私の娘の結婚式を、僕の結婚式を神父様にしてもらいたかった」「幼稚園の子供の卒園式にいて欲しかった」という声も聞いたし、町の人々も「ジュードさんのいない町は寂しくなるよ」と言ってくれます。そんなときに、とてもとても辛い悲しい気持ちになってしまいます。でも、これから違うところに行っても、何らかの形で皆さんと手を繋いでいきたいと思っています。少なくとも祈りと共に一緒になりたいと思っていますので、皆さんも私のためにお祈り下さいませ。

－＊－＊－＊－＊－＊－

お迎えする司祭・修道士

伊丹から高知の中島町教会へ

ジョセフ・ブラッドリー神父

私はスリランカ出身のジョセフ・ブラッドリー・ロザイロです。家族は両親と姉が二人で、一人はシスター（修道女）です。

私は一九六四年一〇月三〇日、スリランカの東にあるトリンコマリーというところで生まれ、一九九二年八月二二日司祭に叙階されました。叙階式が終わって後、スリランカのコロンボで二年間病院のチャプレン（病院に勤務の司祭）の経験をしました。

その後、オブレート会の総長神父に要請されて一九九四年に日本に来ました。そしてすぐ翌月から、名古屋ＹＭＣＡで二年間日本語を勉強しました。そのうえ南山大学で、日本の歴史と社会についての勉強も少しあったので大変忙しかったのですが、これも大変興味のあることでした。

日本語の勉強を終えて、最初に派遣された小教区が福岡でした。その後一九九八年に、兵庫の伊丹に主任司祭として派遣されました。伊丹で七年間の生活を終えて、今年一月一〇日高知のカトリック中島町教会に協力司祭として来ました。これから司祭・修道者・信徒と一緒に高松教区の発展のために働きたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

徳島出身の青少年司牧委員長

ブラザー八木信彦

前任のジュード神父様が福岡教区へ異動となり、今回青少年宣教司牧委員会を担当することになったブラザー八木信彦です。私は徳島で育ち、中学生の頃から当時の「いばらの冠」（一九七〇年代の頃、高松教区内の青少年が、教区内の教会で合宿をしたり、高知県土佐山田の児童養護施設博愛園や香川県大島青松園でワークキャンプを行う活動）でお世話になり、そのことが現在の修道士としての道を歩むきっかけになったように感じます。今度はその「お返し」をするときが来たのかもしれません。自分の力だけに頼らず、皆さんと共に神さまに委ねながら、自分以上でも以下でもなく自分らしさを、青少年宣教司牧のため、また同時に高知地区の協力宣教司牧のために、捧げていけたらと心から願っています。皆さん、どうぞよろしくお願いします。

会議報告

○教区典礼委員会発足
○協力宣教司牧スタート
教区活性化を目指して
～司祭評議会～

二〇〇五年度第八回司祭評議会は一二月六日に開催されました。決議事項等は次のとおりです。

1　教区活性化のため四月から二つの修道会のシスターが来られます。

① 高松教区事務所に「人権を考えるデスク」を設置。ここに、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会から派遣されたシスターが働きます。

② 丸亀と善通寺の幼稚園に、大阪聖ヨゼフ宣教修道女会から派遣されたシスターが働きます。

2　典礼委員会が活動を開始します。メンバーは、

委員長＝濱口秀昭師（教区会計）
諏訪栄治郎師
（高知地区協力宣教司牧司祭）
ルイジ・シメオニ師（司教秘書）
Sr今村美砂（聖マルチン修道院）
小笹好美（桜町教会）
山本謙吾（桜町教会）

の六名です。

3　ジュード師に代わり、八木信彦修道士が青少年委員会の委員長となり、今年度の活動計画について討議しました。

① 青少年委員会は、教会学校・中高生・青年活動を組織し、支援する委員会であり、高松教区本部に事務局を置き、四国カトリック会館三階の部屋を事務室にして、ここを拠点にして活動をすると共に青年専用のホームページも開設することになりました。

② 委員の選任については、司教、八木委員長に一任されました。

③ 年間行事については

○教会学校関係＝「教区子どもの集い」を年一回主催
○中高生関係委員会＝会合を年二回企画、実施
○青年関係委員会＝会合を年四回企画、実施

また、それぞれの関係委員会が教区外活動とも連携していきます。

4　現在、高知地区で実施されている協力宣教司牧体制を、今年四月以降出来るところから導入していくことにしました。司祭同士、信徒同士が協力し合っていくという利点が生まれてくると考えられます。反面問題点もでてくるかもしれませんが、この一年間、司教とスタッフが十分な説明をしながら実施していくことになりました。

① 高知地区は、中島町教会、江ノ口教会で協力宣教司牧体制を持ち、諏訪師がモデラトール（責任者）となります。

② 高松地区は、桜町教会、番町教会、坂出教会、小豆島教会を協力宣教司牧体制とし、松永師がモデラトールとなり、濱口（秀）師が協力司祭となります。

③ 愛媛地区は、松山教会、道後教会、郡中教会を協力宣教司牧体制とし、サトルニノ師がモデラトールとなります。

④ 徳島地区は、徳島教会、阿南教会、鳴門教会を協力宣教司牧体制とし、シルバー師がモデラトールとなります。

設立準備順調に進む
年間計画は旧信徒協を踏襲
～宣教司牧評議会役員会～

信徒使徒職協議会の発展的解消を受け、宣教司牧評議会設立準備のための役員会を一月一四日に開催し、次のことを決定しました。

1　すでに確定していた司祭および信徒代表の評議員に、地区から推薦されていた信徒の中から教区長が指名した四名を加え、一四名の方が任命されました。

2　宣教司牧評議会規約（案）を作成し、第一回宣教司牧評議会に提出し検討することにしました。

3　年間計画について、信徒協時代の体制をできるだけ崩さず、引き継ぐことを基本に第一回宣教司牧評議会で検討することにしました。

カトリック高松司教区宣教司牧評議会評議委員名簿
（二〇〇六年一月現在）

会長	溝部脩（司教）
副会長	松永洋司（司教総代理）
司祭	浜口末男
司祭	濱口秀昭
愛媛地区	今泉芳純
〃	関ちず子
高知地区	岡副俊雄
〃	永野和子
徳島地区	高田芙美
〃	橋本正士
香川地区	中越恵美
〃	小野雅之
修女連	Sr竹中史江
〃	Sr小島初代
指名	西川康廣（桜町教会）
〃	田井貞良（桜町教会）
〃	河合良治（番町教会）
〃	松本英子（中島町教会）

第一回青少年委員会開かれる
～青少年宣教司牧委員会～

一月一五日（日）午後二時から高松の四国カトリック会館にて第一回目の青少年宣教司牧委員会が開かれ、溝部司教様から任命された委員一〇名が集いました。司教様が進行役を務められ、約二時間半ほど、早急に決めるべき今後の青少年の活動や行事について話し合いが持たれました。その後は、司教様御自身がスパゲッティーミートソースをつくって私たち委員にふるまってくださり、和気藹々とした中で、夕食を楽しみ、その日の集いを終了しました。

次のことが委員会で決まりました。

1　岡田大司教によるカテケージス&あっちこっちミサ
　五月二一日（日）、松山教会において。前日の五月二〇日から集まる。

2　こども（小学生～中学生）の集い
　六月三日（土）～四日（日）、新居浜教会にて行う。

3　高校生活動について
① 中高生ではなく、高校生の活動を行う。
② 前記「こどもの集い」にも参加をする。
③ 中国ブロック高校生の集い、海外ボランティア等への派遣を勧める。

4　青年活動
① 青年向けのＨＰ（ホームページ）を作成する。
② 年間二回、青年の集いを教区行事として持つ。（今年は岡田大司教によるカテケージス&あっちこっちミサと一〇月頃、青年の集いを開催）

※ただ今、あっちこっちミサの青年スタッフを募集中です。
応募はBr八木まで
TEL/FAX:088-872-3672
Mail:
tk-youth@mxi.netwave.or.jp
委員長　八木信彦

聖ドミニコ修道会ロザリオ管区日本地区長にファン・マヌエル神父

この度、ゴンザロ・ベルモンテ・ファン・マヌエル（Gonzalo Belmonte Juan Manuel）神父が聖ドミニコ会ロザリオ管区日本地区長に就任されました。
ファン神父の略歴・趣味・抱負等をご紹介いたします。

略歴
一九六九年三月　スペイン国マドリッドで生誕
一九八八年九月　聖ドミニコ修道会に入会
一九九一年六月　ローマ教皇庁立サント・トマス大学哲学科卒業
一九九四年六月　同大学神学科卒業
一九九六年六月　ローマ教皇庁立グレゴリアン大学聖書神学科卒業、学士取得
一九九六年一〇月　来日。日本語学校で学び上智大学にて研修
二〇〇二年二月　ローマ教皇庁立サント・トマス大学院聖書神学科博士コース入学
二〇〇三年九月　東京聖アントニオ神学院非常勤講師
二〇〇四年四月　愛光学園、聖カタリナ大学非常勤講師
二〇〇五年二月　ロザリオ学園愛和聖母幼稚園園長
二〇〇六年一月　聖ドミニコ修道会ロザリオ管区日本地区長

出版物
論説
「愛する者の探求」（"A la busqueda del amado" Studium36(1996)165-192）
「コヘレト　正しく読むための基本的な理解」（"Qohelet：clave de lectura" Studium43(2003)407-432）
書物
「心　出会う場所。西洋と東洋の宗教的な対話に向けて」（El corazon de encuentro, Hacia un dialogo interregioso Oriente-Occidente, Edibesa, Madrid2003）

趣味
散歩、ハイキング、水泳、音楽鑑賞（Ｊポップ、カントリー、演歌、クラシック・・・）、音楽演奏（ベース、コントラバス、ギター）、プラモデル製作、写真撮影、ドライブ、日本の伝統的なもの

抱負
これからの四年間、聖ドミニコ修道会のミッションに全力を尽くし、高松教区の発展のために努力したいと存じます。今後ともご指導とご協力をお願い申し上げます。
（ファン・マヌエルＯ・Ｐ）

訃報
エドワード・ラウニー神父帰天（オブレート会）

一月二〇日にラウニー神父は帰らぬ人となられた。痛恨の極みである。ラウニー神父は一九三〇年五月一三日誕生、一九五六年に司祭叙階後まもなく日本に来られた。二年間は日本語の勉強、一九五八年に福岡、一九五九年鳴門、一九六一年江ノ口、一九六二年安芸、中島町、一九六三年から一九七五年まで徳島で働いて下さった。この徳島での間に病（糖尿病）に罹られた。病気を癒すためアメリカに帰国され、その後福祉施設専従の担当司祭として司牧に当たられた。この間にも病は癒えぬ儘に月日が流れ最後の時を迎えられたと聞いている。

徳島教会に在任中、ラウニー神父の人柄に魅せられて信仰に導かれ、洗礼の恵みを戴いた人は多く、更に修道生活へ進んだ人も幾人かあった。現在の時点でもラウニー神父への思慕の念を多くの信徒は思い続けている。享年七五歳とは如何にも哀惜の念交々である。

徳島教会　稲垣一男

各地区だより

僕と村上神父様
柴犬太郎の独り言～今治教会～

『僕の名は太郎。カトリック今治教会の神父館に住むようになって、三ヶ月になる。

一三年もの間、僕を育ててくれた心優しい主人、それはアセンション・マリア石丸和子様。昨年一一月八日、七六才の生涯を閉じ、御父のもとに召された。身寄りのない僕の行く末は、と案じていたが、神父様が僕を引き取ってくれた。

僕は一三才の純血種の柴犬だ。体が太く、どっしりしていて、一見無愛想にみえるが、誠実でやさしい犬なんだ。主人が療養中から入院中も、神父様は毎日お見舞いして主人を励ましてくれたが、その折には必ず僕を散歩につれていってくれた。

僕の主人の最後の願いを全て聞き入れ、主人が安心して御父のもとにいけるように導かれた神父様の姿に、信徒の皆さんが、神の愛とキリストを見るようだと言っているのを僕は聴いた。この時から僕は、神父様には従順についていこうと決心したんだ。

教会での平穏な暮らしの中で、一番の楽しみは、神父様と一緒に街のあちらこちらへ散歩に出かけることだ。先日、神父様におともして、お客様をＪＲ今治駅までお見送りしたときのこと、見知らぬ人達から「いい犬ですね」とか「尻尾の巻き方がとてもいいですね」などと声がかかり、僕は少し面映ゆかったよ。散歩中ご近所の方や市民の人達も「教会の犬ですか」などと声をかけてくれる。

広い教会の敷地の中で、僕が入ってはいけない所、それは幼稚園の運動場。可愛い園児達と遊びたいのに、絶対に入れてくれない。それで僕は、神父館とお御堂を繋ぐ通路になっている二階の踊り場の窓辺で寝転がって、運動場でワイワイと元気に遊ぶ皆を眺めることにしている。

ところで、聞くところによると、今治教会に日本人の神父様をお迎えしたのは、一九二六年マカリオ・ルイス神父様が今治で宣教を始められてから一一年後の一九三七年、ピオ渡辺義徳神父様が僅か三ヶ月だけ着任されて以来とのことで、実質的には、村上康助神父様が初めての日本人神父様と言えるらしい。信徒の皆さんは特別な感慨をもってお迎えしているようだ。

僕にとって前の主人との別れは寂しいけれど、いつか僕は、天国の一歩手前の「虹の橋」で再会し、一緒に橋を渡る日が来ることを信じて、新しいボスに従って、信徒の皆さんと仲良く平和に暮らしてゆきたいと念じている。』以上は、名犬、太郎からの地区だよりです。

やさしい老犬ですから今治教会においでの時には、声をかけてやって下さい。

◇　◇　◇

今治教会では今年、ドイツ典礼研究所に留学され、現在、御受難修道会管区長で、日本カトリック典礼委員会メンバーであられる国井健宏神父様の「ミサ・イエスを忘れないために」をテキストに、ミサとご聖体について村上神父様のご指導をいただき、皆で勉強することにしています。

今治教会　新居田大作

ぼくの反省
これから家出はしない
ボスが転んでも待ってる

みんな　ありがとう

淳子のおばちゃん、迎えに来てくれてありがとう
うれしくて声がでなかったの
お礼がいえなくてごめんね
昨日は眠れなかった
こわくて　さむくて
いつものように　大きな声で　呼んだら
おまわりさんに　しかられた
ほかのワンコの　悲しそうな　においが
床や壁にこびりついていた
タローは運がよかったんだ　探してくれて
迎えに来てくれて　ありがとう

ひとりぼっちの夜の街

いつも寝る前に　ボスと散歩にいく街　いろんなことがあって楽しい
でも昨日はひとりで　歩いていたら　すごくやだった
雨が降ってきたし　のどが渇くし　寒いし
店をのぞくと怒鳴られるし
それで仲間の匂いのするペット屋さんのお店にもぐりこんだの
よかった
親切なおねえちゃんがいて　警察に連れてってくれた
おまわりさんも　親切だった　ご飯もくれた
でも食べられなかった

今治城も見たよ

天国のおかあさん　ありがとう

ボスのお部屋で安心

ここに入れられて　出られなかったワンコ
いっぱいいるんだって　よかったおうちに帰れて
きっと　天国のお母さんがお祈りしてくれたんだ
ありがとう　お母さんのこと忘れてないよ
いつか　虹の橋で会おうね　楽しみに待っててね

夕方、新しいボスが帰ってきたの
黙って抱いてくれた
甘え鳴きしちゃった　これからどこにも行かないよ
ごめんね

2005/12/6 タローより
（今治教会　主任司祭 村上康助）

お餅つき

一月第二日曜日、この日は鳴門教会恒例のお餅つきの日です。今年は一五日になり、少し遅くなりました。前日からの雨もあがり、風もなく暖かい一日です。今ではほとんど見なくなったと思いますが、私たちの教会では庭に大きなおくど、羽釜（はがま）を据え、せいろを載せ薪を燃やして湯を沸かし、もち米を蒸して石臼で杵を振り餅つきします。昔懐かしい風景です。道具を倉庫から出す人、餡を作る人、もち米を浸す人、少ない人数ですが皆で手分けをし準備します。ミサの後、もち米も蒸しあがり、大きな声小さな声掛け声勇ましく（かな？）餅つきの始まりです。子供も（今年は子供たち少なかった。）大人も皆で丸め、色々な形のお餅が出来上がります。豚汁も作りました。皆でわいわい、がやがやと美味しく楽しく頂きました。この行事が終わると新しい年の始まりだと何時も感じます。

みんなでペッタンペッタン

鳴門教会　小倉義子

巡礼記

シルバー神父様と行くサンチャゴの旅

サンチャゴはスペインの最西端のガリシア地方で西暦八一三年、イエス・キリストの愛弟子の一人聖ヤコブの遺体が発見され、世界三大聖地の一つとなった所です。シルバー神父様を含め総勢一四名がロンドンを経由してバルセロナまで飛び、そこからサンチャゴまでバスで移動しました。バルセロナには建築中のサグラダファミリア教会、ピカソ美術館等があり、スペイン独特の雰囲気を感じる土地。

次に聖イグナチオ・ロヨラが精神修業をした洞窟やベネディクト修道院のあるモンセラに上りました。押し迫る岩塊や朝夕の激しい気象の変化には身も心も引き締まる思いがしました。イベリア半島に初めて神を伝えた聖ヤコブの目前にマリア様が出現したサラゴサやパンプローナの教会も訪ねました。ナバラの道の巡礼拠点であるロンセスバゼスで巡礼用スタンプ台紙を購入。私たちはバスですが歩く人や自転車の人には別の台紙が貰えます。歩く人は車道を通らず山道のような所を歩くのが普通とか。フランスの国境を越えて来られた方が、杖を二本持参されていて、巡礼の厳しさが解りました。歩き易い所はいいけれど、木陰さえない所や雨の日は大変なようでした。ブルゴスやレオンの大聖堂はゴシック様式で堂々としていてステンドグラスが見事でした。道々立ち寄ったロマネスク様式の小さい教会は素朴で、イエス様やマリア様のご像にも抱かれていたい温かさと気品がありました。

一日の始まりはバスの中の祈り。先唱の方の言葉に合わせ主に導きを願って祈ります。又、毎日のミサでは心が洗われ、生きる勇気を与えられました。今回は孫も一緒だったので尚更です。それから旅の楽しみは食事です。案内役の小村さんはスペイン在住が長く国内の事情にも精通され、各地で美味しい料理とワインが頂けたのは大変幸せでした。最後のサンチャゴ大聖堂では二〇名の司祭によるインターナショナルミサ。三人の司式司祭の中にシルバー神父様も選ばれ、私たちは最前列でミサに与りました。聖歌はラテン語で昔聞いたキリエレイソンやサンクトス等で懐かしく、昔の聖歌集を持参すればよかったねと言い合いました。ミサの中での挨拶代わりにシルバー神父様の唱えた日本語の「主の祈り」に大声で和しました。圧巻は数十メートルの高さの天井から吊るされた香炉で、左右に大きく振ると聖堂いっぱいに香が立ち込める中、毎日千人以上の巡礼者が集い、旅を成し遂げた感謝の祈りを捧げるのです。私たちも心から主に感謝しました。

阿南教会　答島久子

「喜びの丘」(ゴソ山)にて
一行14名は、山頂に建てられた巡礼者の記念像の前から、サンチャゴに向かって叫んだ。

サンチャゴ大聖堂のプラテリアスの門

聖地巡礼とミサ朗読奉仕

朗読の際の心得として朗読箇所の中身にはいっていく事はなかなか難しい。下手をすればただ「読む」だけになって終う。心に思い浮かべられるカトリック文化、歴史が分かっていないから何度読んでも想像の限界があるからだ。

旧約の歴史的背景、新約に登場する人物や地理等実感が湧いて来ない為である。実際に聖地巡礼でイスラエル、イタリア、地中海世界へ行き歴史文化に触れ、味わい、その記憶が役立つと思った。一九九四年春ローマとイスラエル一二日間の聖地巡礼をした。その地での感動と驚きは聖書に対する感性が大きく変わった。私は神学的知識を得る為に聖地巡礼をする積もりはない。歴史、地理、文化、芸術の側面から旅の面白さと楽しさで聖書の意味を味わうことにしている。

宇和島教会　中平荘作

ローマ・コロッセオにて
中平さんご夫妻

お知らせコーナー

青年召命黙想会のお知らせ

テーマ：「呼びかけに応えよ」
日　時：４月２２日（土）午後１時～２３日（日）午後１時
場　所：宝塚黙想の家
指　導：赤波江謙一神父（聖パウロ会司祭）
会　費：９０００円
締　切：４月１０日
問合せ先：聖パウロ修道会　Br.高木　進（召命担当）
TEL：092-721-2031　FAX：092-739-3930

投稿記事募集

教区報に 皆様からの意見・要望等を掲載するコーナー が誕生!!

投稿上の決まり

① 原稿の字数は３００字以内（写真があれば写真もお送りください）
② 原稿には必ず「所属教会名、住所、氏名」をお書きください。匿名記事は、編集委員会で検討し、受理しないことがあります。
③ 内容等：一般の投稿とは別にし、自由な意見を投稿して下さい。ただし、中傷・誹謗などと思われるものは、編集委員会で検討し掲載しないことがあります。
④ 原稿の取り扱い：原稿は原則お返し致しません。
⑤ 原稿の送り先：文書はできるだけメールで送って下さい。写真もデジカメで撮影したものであればメールで送って下さい。
（ア）メール　tk-koho@mxi.netwave.or.jp
（イ）郵　便　〒760-0074　高松市桜町１丁目８－９
カトリック高松司教区広報担当　宛　（TEL 087-831-6659）
（ウ）ＦＡＸ　087-833-1484
⑥ 原稿の締め切り日は発行日の一ヶ月前とします。

司 教 日 程

３月２日（木）常任司教会議、神学校合同委員会
３月４日（土）仙台司教叙階式
３月７日（火）司祭評議会
３月10日（金）カタリナ大学卒業式
３月12日（日）中島町教会黙想会
青少年宣教司牧委員会
３月17日～19日（金～日）
福岡教区大名町教会黙想会
３月21日（火）第１回香川青年のつどい（聖母被昇天会）
３月23日～26日（木～日）
カトリック教育委員会（台湾）
３月27日（月）神学院認定式
３月29日（水）助祭叙階式（松山ドミニコ会）
４月２日（日）徳島教会黙想会
４月６日（木）常任司教委員会
４月９日～16日（日～日）聖週間（カテドラル）
４月22日（土）キリスト教講座（高松）
４月23日～24日（日～月）日本殉教者歴史調査委員会

編集後記

弥生の候、木も花もつぼみをふくらませて春の気配が感じられる季節となりました。

教区報編集に関わる中で、司教様の思いを伝え教区における「一致への歩み」を切に願って働かれていた故佐々木光雄神父様のことばが今も耳から離れません。

二〇〇四年八月五～六日と広島での平和記念行事にやっと参加することが適いお話しする中で「溝部司教様をお迎えし、高松教区のために、まだまだやらなければいけない事がたくさんあって、休めないね。」とおっしゃった言葉が最後になりました。起きた事柄を心にとめ思い巡らしながら今回の一一〇号の発行を迎えました。天国で神父様はどんな顔をされているでしょう。昨年末、宣教司牧評議会が誕生したこともあり司祭評議会とともに更なる刷新する教会の歩みを祈り、一人でも多くの方々に読まれる教区報作りをと願っております。

（中川修栄）